

「名古屋いりやあせツアー」 — 続く被災地支援ボランティア —

名古屋学院大学では震災発生直後から学生支援センター（S-プラッツ）を通じて多数の学生が被災地支援ボランティアに参加してきました。今年も多くの学生が被災地を訪れています。

その数は今夏で約420名を数えます。今までの活動は主に宮城県、岩手県を中心とした被災地で行っていましたが、今夏は名古屋YWCAと共同で「名古屋いりやあせツアー」を開催しました。これは、福島県の親子に安心して外で思い切り遊んでほしい、という思いで行ったものです。

8月19日（月）から23日（金）の4泊5日の日程のツアーに、福島県在住の小学生と保護者12組33人が参加してくれました。前半は瀬戸キャンパスの合宿所「友愛」に宿泊し、ウエルカムパーティーでのバーベキューや、瀬戸キャンパスのナイトハイク、岩屋堂の水遊びなど、戸外で思い切りカラダを動かして

瀬戸の自然を満喫していただきました。1組の親子に学生ボランティア1人がつき、子供さんだけでなく親御さんも安心して楽しく過ごせるよう手助けをしました。後半は名古屋に移動し、モリコロパークと名古屋市内を自由に巡りました。学生たちと汗びっしりになりながら駆け回った子供たち、夏休みの思い出をいっぱいくり日に焼けて元気に福島に帰っていききました。

今年の夏はこのツアー以外に、農業復興支援や漁業復興支援、海浜清掃、古道整備、仮設住宅支援（住民との会話や集会所イベント補助など）などに学生ボランティアが汗を流しました。これらの活動に参加した学生のうち希望者には、事前学習、事後学習、課題レポートと実習日誌提出を経て評価し、「ボランティア演習」の単位（2単位）が認定されます。



名古屋学院大学震災ボランティアの詳細はホームページをご覧ください
http://www.ngu.jp/splatz/manazashi/

留学生、浴衣姿で 折り紙体験

6月29日（土）、「折り紙教室〜Japanese Language Day〜」が開催されました。

短期研修で来日中のオハイオ州ボウリンググリーン州立大学の学生たちに日本文化に親しんでもらおうと企画されたもので、地元ボランティア団体「熱田和衣和衣倶楽部」のご協力により学生たちに浴衣を着付けていただき、浴衣姿で折り紙をしました。折り紙をはじめの学生が多く、日本人の学生が手順を二つ英語で教えながら折りましたが、小さな折り紙に「too smart」と悪戦苦闘する姿もあちらこちらで見受けられました。折りが上がると皆さん大喜びで、日本の小さなお土産となりました。

オハイオ州ボウリンググリーン州立大学（BGU）は本学協定校のひとつで、2002年から短期研修を毎年受け入れており、今年で12回目となります。今回は6月11日に14名（引率教員1名を含む）が来校し、約1ヶ月間滞在しました。講義の他にホームステイや小学校訪問、相撲部屋の朝稽古見学、京都・広島への修学旅行など盛りだくさんのメニューをこなし、学生や地域のかたがたと交流しました。



創立50周年の シンボルマークと スローガン決定

名古屋学院大学は2014年に創立50周年を迎えます。これを記念し、シンボルマークとスローガンを制定しました。

「シンボルマークについて」

キリスト教主義のシンボルである十字架をモチーフにしたデザインです。十字架によって分けられた4つのスクエアは、「大学」と、大学を取り巻く「地域」、「産業界」、「国際社会」を表現し、それら4つがつながりあっている1964年から50年、そして「輝く未来」を切り拓いていく大学の姿を表現しています。

「スローガンについて」

「未来に目を向ける」を意味する英語をスローガンとして設定。充実したサポート体制があるからこそ、誰もが「前向き」に「歩み」、未来の可能性を広げる力を身につけることができる大学であることを表現しました。また、50周年という節目の年に、さらなる飛躍をめざして進化し続けていく大学としての姿勢をアピールします。

書体は、視認性に優れ、洗練された明朝系を使用。「O」を重ねることで、「つながり」や「共に」という「連携」や「連帯感」を表現しています。



未来をともに進もう。

※スローガンは、50周年を迎えた後も、大学のスローガンとして継続的に使用していきます。